

明治三十五年五月

敷賀英設備南
在浦潮帝國領事
稟由之件

外務省

大正

次官

陸海軍省

陸海軍省

機密 受第1362號

明治四十年五月廿八日發受

普通商局

鈴木

機密第三九號

敦賀港設備・開業申請件

昨年七月露國政府、保護ヲ受ケタル
露國東亞汽船會社カ當港敦賀
間ニ每週一回定期航路ヲ開始シ西伯
利鉄道ニ連絡スルキ歐亞兩大陸間ニ
最モ便宜ナル交通綿ヲ開キ以テ當港
本邦間ニ往復スヘキ旅客ハ一ニ之ニ由ルヘキ
ニ相成リ尙ホ又本年四月大改商船
株式會社ニ政府、保護ヲ得テ前記
兩港間ニ一週一回、定期航路ヲ開始シ
露國ノ如キハ本年秋期東亞汽船會社

在浦潮港日本貿易事務館

ト契約期限満了後ハ露國義勇
船隊ニ於テ其事業ヲ継承シ大ニ力ヲ
此ノ航路ニ致シ巨大ナル船舶ヲ使用シ航
海度數、如キ一週二回ニ増加スヘキ趣ハ
最早幾ント公然、秘密ニ有之ヲ抑
露國カ戰敗後財政窮乏シ萬般ノ
事業萎靡不振、有様ナルモ拘ラス此
航路ニ對シ率先保護ヲ加ヘ本邦航
海業者ヲシテ其機敏ナル計畫ニ驚
嘆セシメタルハ如何ナル理由ニ基クヘキ歟必
スヤ該航路ニ就キ深ク慮ル所アルニ依ルナル
ヘシ蓋シ西伯利大鉄道ハ開業後間モ
ナク日露、開戦トナリ從テ東亞、於テ同鉄

道、伴テ興ルヘキ露國、諸般計畫ハ一時廢滅ニ帰シタルカ今ヤ平和克復ト共ニ東亞ニ於ケル交通事業ハ露國カ最も苦心スル所ニシテ鐵道ヲ複線トナス、計畫アルト共ニ前記航路、一日モ忽諸、付スヘカラサルヲ知リ極力之ヲ擴張ヲ謀リ該航路ヲシテ名實共ニ世界ノ大交通路タルニ及カサルヲ期スルニ可有之ヲ斯、如クシテ當港敦賀間、三十噸以上、快速力汽船カ一週三回宛往復スヘキハ近々、内ニアルヲ而シテ之ニ對スル我敦賀港ノ設備如何ヲ顧ミレハ轉テ慨嘆ニ堪エサルモノ有之ヲ該港天然ノ地形ハ北陸沿岸最良ノ港灣タル

在浦潮澤日本貿易事務館

ヘキモノヲ以テ世界公道ノ港灣トナスハ缺點頗ル多ク目下、有標ニハ二三噸位、汽船ハ二三隻以上同時ニ碇繋スルヲ得サレリ而カモ冬期北西風強キ時ハ船舶ハ常々官澳ニ避難スルヲ常トス其他該港ニ於ケル設備ハ孰モ狭小不完ニシテ到底歐亞兩大陸交通路ノ要着點ニ相當シタルモノアルヲ見ス又棧橋ノ如キ端航ノ如キ浮標ノ如キ起重機ノ如キ旅客、如キ船舶旅客貨物ヲ運送スヘキ百般ノ設備モ整頓シタルモノナキハ如何モ不覺ノ至ナリト存美大ニ該港改築ニ関スル大體、昇見ヲ陳述シ帝國政府カ一日モ速ニ敦賀築

港：着手セラレムコトヲ切望致ス次第ニテ

(一) 現在、碇繋場ハ水面狭小ニシテ之ヲ修築スルモ無益ノ業タルヘシ

(二) 常宮澳ヲ碇繋場ト定メ、小崎岬ヲ防波堤ヲ築キ出シ、棧橋ヲ築クヘシ(海岸凡ソ百五十間ヲ距ル)

(三) 常宮澳ト敷賀所トハ鉄道ヲ以テ連絡スヘシ(其間凡ソ四五哩)

右設計ニシテ實行セラルトキハ、敷賀港ハ大ニ面目ヲ改メ、希クハ世界ノ公道タル港ニ成ルモ、幾スヘキ歟ト被存美又常宮澳ニ築港スルハ、現在ノ事情ニ於テ或ハ敷賀所民、及對スル所タルヘキヤモ、因ラレズ莫得共

在浦潮港日本貿易事務館

國家百年ノ計トシテ、地方一部ノ反對ハ顧ミル所ニアラスト、確信致ス尚ホ本件ニ關シテハ、通信内務兩大臣ハ勿論港灣調査會ノ審査ニ付セラル、様步取計ハ成否切望ニ至テハ、固ヨリ専門技師ノ調査ニ詳細ニ至テハ、存候別紙敷賀港畧圖ヲ添附般稟申致候敬具

明治四十年五月廿五日

在浦潮

貿易事務官

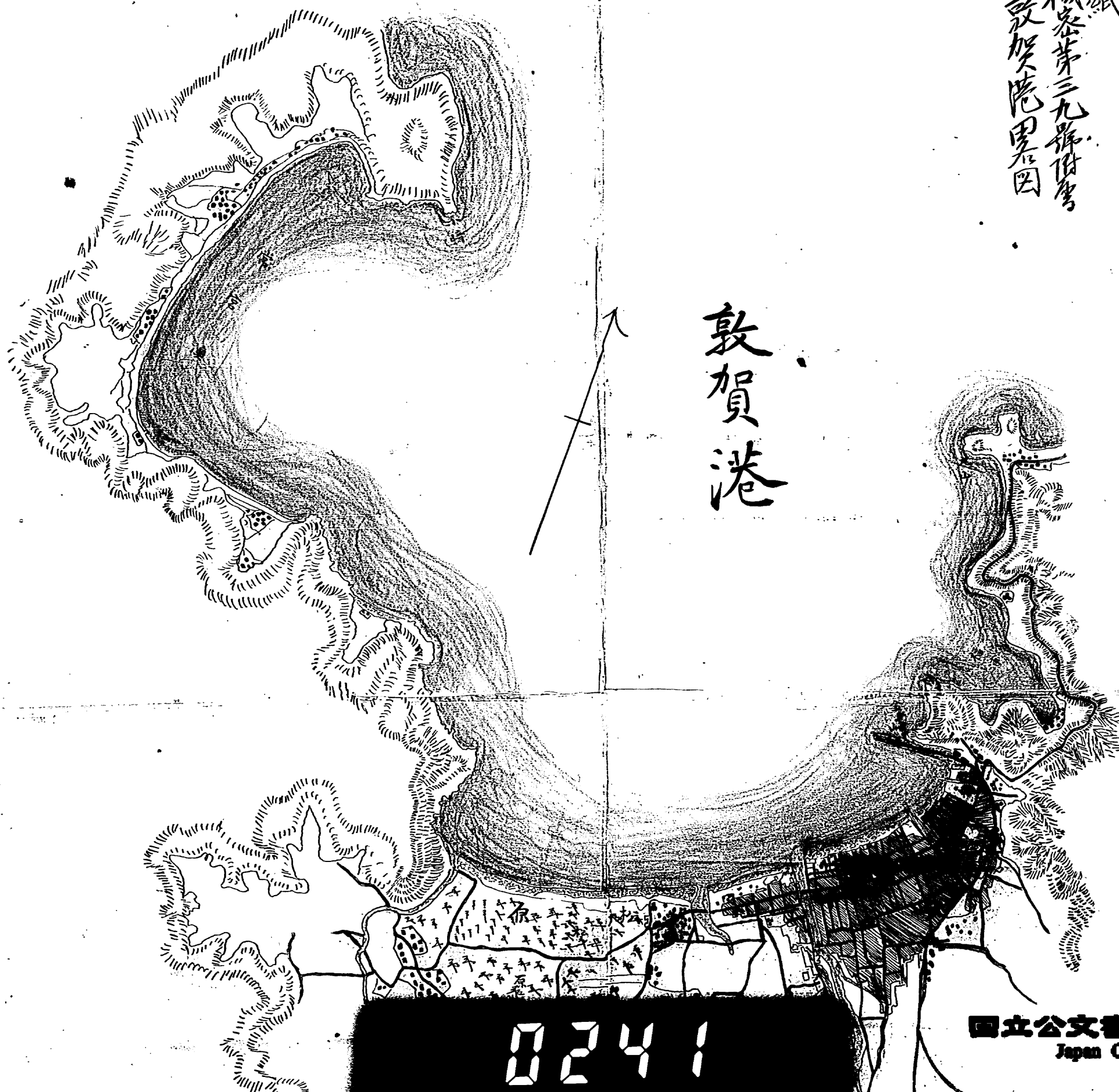
野村基信



外務大臣子爵林 董殿

別紙
機密第三九番附書
敦賀港図

敦賀港



3-2059

0241

貝港



3-2059

0242

文書課長



明治三十四年六月十日接受

59

4

明治三十四年六月十日
文書課長

別紙

通商局長

作



送第一二四號

内務省

外務省

港務調査會長宛

敦賀港設備に関する件

明治三十四年六月一日記

外務省

浦潮・敦賀西港間、航路・敦賀露地政

府計畫・対敦賀港設備、件・関心方面

在浦潮斯法布邦貿易事務、別信、

通具申有之、并為港務委員、供養費

の間、浦潮貿易、上・港及送相所度此段申

進、也

(別紙、所、貿易、上・港及送相所度此段申、進、也)

0243

警通

九三〇五

明治四十六年六月十九日

港灣調金層雲長原歌

外務大臣子爵林董

四十年六月廿八日記錄輯錄

內務省